

令和4年度 第2回 学校関係者評価委員会

1. 日 時：令和5年1月17日(火)
2. 方 法：書面開催
3. 会議の概要：

1) 自己評価委員からの報告(資料提示)

<p>I. 令和4年度 後期の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学生の状況 2. 後期の主な行事 <p>II. 新型コロナウイルス感染症に関わる学校運営の状況</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新型コロナウイルス感染症の状況 2. 新型コロナウイルス感染症に関する講義の対応 3. 新型コロナウイルス感染症に関する実習の対応 <p>III. 令和4年度 上期収支状況について</p> <p>IV. 第5次カリキュラム改正の運営について</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 新カリキュラム導入後の進捗状況 2. 令和5年度新設科目
--

2) 学校関係者評価委員による評価

テーマ：①令和4年度学校運営についてのご意見 ②令和5年度看護基礎教育に期待すること

4. 学校関係者評価委員からの意見

テーマ①：令和4年度学校運営についてのご意見

学校関係者評価委員の評価	今後の取り組み
1) 新型コロナウイルス感染拡大により学校運営に多大なる影響があった。そのような状況下において、病院と情報共有、連携を図りながら、柔軟に調整・対応して教育実践ができていた。	感染状況に応じた感染対策の継続。 関連施設との情報共有と連携。 状況に応じた柔軟な学校運営の実施。
2) 新カリキュラムと旧カリキュラムを並行しながらの教育実践は大変であったと思うが、今のところ問題なく実践できている。	令和5年度 新規で開始となる主な科目 ・領域横断科目、多職種連携実習、厚生連関連施設での実習 開始にあたっての綿密な計画と、関係者との打ち合わせ。学生が学習目標を達成できるよう、実施に向けた準備と確実な実施、評価。
3) 人と人とのつながりの大切さに気付くよう、これからも学生育成をお願いしたい。	講義や実習での経験を通じた教育の強化。 さまざまな人との出会いやつながりを大切にできるよう、教科外活動や学内でのクラス運営等を通じた学生の感性を磨いていくようなはたらきかけ。
4) 新型コロナウイルス感染症に罹患した学生にどのような後遺症、症状がみられているのか、それに対する対応はどのようにしていたのか。	現在のところ風邪症状が数日続いた事例が多く、長期間におよぶ重大な後遺症を残す対象者はみられていない。欠席が続くことによる授業への影響については、補習を行うことで対応した。 記憶障害や判断能力の低下等が後遺症として残った場合の対応は個別的な対応が求められると考える。そうした場合が生じる可能性があることも予測しながら検討していく。

テーマ②：令和5年度看護基礎教育に期待すること

学校関係者評価委員の評価	今後の取り組み
<p>1) 実習において、患者・スタッフとの関わりでの対人関係のあり方、距離感、言葉遣いについて振り返り等を行いながら、自分で対応していく対人能力を身につけていけるようお願いしたい。また、さまざまな人とのかかわりを通して、看護師としての人間力も磨いてほしい。</p>	<p>新カリキュラムにおいて、「人間を幅広く理解し、支え合い、成長し合う関係を築くことができる力」をディプロマポリシー(卒業認定・専門士授与に関する方針)のひとつとして明示。 学校生活・授業方法において‘対話’する場面を大切に教育の実践。</p>
<p>2) 新人看護職員には高い実践能力が求められる。新人教育でも看護技術の習得と共に、コミュニケーション能力も大きな課題と捉えている。基礎看護教育でより実践に近い看護技術の習得とコミュニケーションスキルが習得されることを期待する。</p>	<p>厚生労働省で示された71項目ある看護技術では、学生が実習で指導の下に実施できる範囲が拡大された。看護技術教育において、学内演習では、原理・原則に基づいた基礎的技術を習得し、臨地実習では原理・原則に基づき患者に応じた基礎的な技術を習得することを目指している。今後も実習ではより多くの技術の見学や実施をお願いしたい。</p>
<p>3) 基礎看護教育にあたり、病院と学院、また厚生連の関連施設においても連携していく必要がある。また、厚生連すべての病院で実習することにより学生間で情報共有をし、厚生連を全体的に捉えていけると思う。期待している。</p>	<p>共に連携しながら看護師育成を行っていくことによる、卒業生の看護実践力の強化、質の高い卒業生の輩出。 実習施設が厚生連の関連施設、幅広く拡大することによる、学生の厚生連組織への理解。 厚生連への就職率維持・向上に向けて、実習をはじめとした教育活動への協力をお願いしたい。</p>
<p>4) 地域包括ケアシステムで活躍する看護師育成に向け、患者・利用者・入居者を全人的に捉え、今のような援助・介入が必要かを判断する能力が求められている。新カリキュラムでの様々な講義・実習を通して地域で暮らす人々への援助方法について学びを深めてほしい。また、看護の対象は入院前から退院後まで地域の暮らしを理解していくことが求められるため、広い視点で学んでほしい。</p>	<p>新カリキュラムにおいては、地域包括ケアシステムの推進に向け、対象や療養の場の多様性に対応できる内容の強化が求められている。 地域・在宅看護論をはじめ、それぞれの領域で[地域]についての内容を充実。 令和5年度開始となる[健康状態別看護学実習I]では、入院時の看護、退院支援、継続看護と、入院前・退院後の生活、地域を見据えた看護について学べる内容を構築。 実習においても、幅広い視野で、地域包括ケアシステムを意識した指導をお願いしたい。</p>
<p>5) 卒業生はコロナ禍で十分に臨地での実習ができなかった学年であり、臨床への不安も大きいと思う。臨床が卒業生の実践力を求めるなか、臨床との連携を図り学生の育成をお願いしたい。</p>	<p>在学中の学生支援と、卒業生支援。 卒業生の状況を多角的に把握し、支援体制を強化。卒業生の課題を明確にし、看護基礎教育の改善へとフィードバック。</p>